

※本文内の（ ）内の数値は志願者数の前年度確定数との対比指数を表します。

◎医学部医学科志願状況

□前期、後期いずれもやや増加で、前期は3年連続、後期も2年連続増加

〔設置・日程別志願状況〕

		2023年度	増減数	指数	2022年度	2021年度	2020年度	2019年度	2018年度	2017年度	2016年度	2015年度
募集人員	前期	3,584	-52	99	3,636	3,604	3,597	3,644	3,676	3,699	3,683	3,653
	後期	351	-12	97	363	408	454	524	539	541	556	586
	合計	3,935	-64	98	3,999	4,012	4,049	4,168	4,215	4,240	4,239	4,239
志願者数	前期	15,960	+873	106	15,087	14,773	14,742	16,390	17,064	18,093	18,342	18,999
	後期	7,549	+294	104	7,255	7,110	7,404	9,081	8,969	9,927	10,073	11,047
	合計	23,509	+1,167	105	22,342	21,883	22,146	25,471	26,033	28,020	28,415	30,046
志願倍率	前期	4.45			4.15	4.10	4.10	4.50	4.64	4.89	4.99	5.20
	後期	21.51			19.99	17.43	16.31	17.33	16.64	18.35	18.12	18.85
	合計	5.97			5.59	5.45	5.47	6.11	6.18	6.61	6.70	7.09

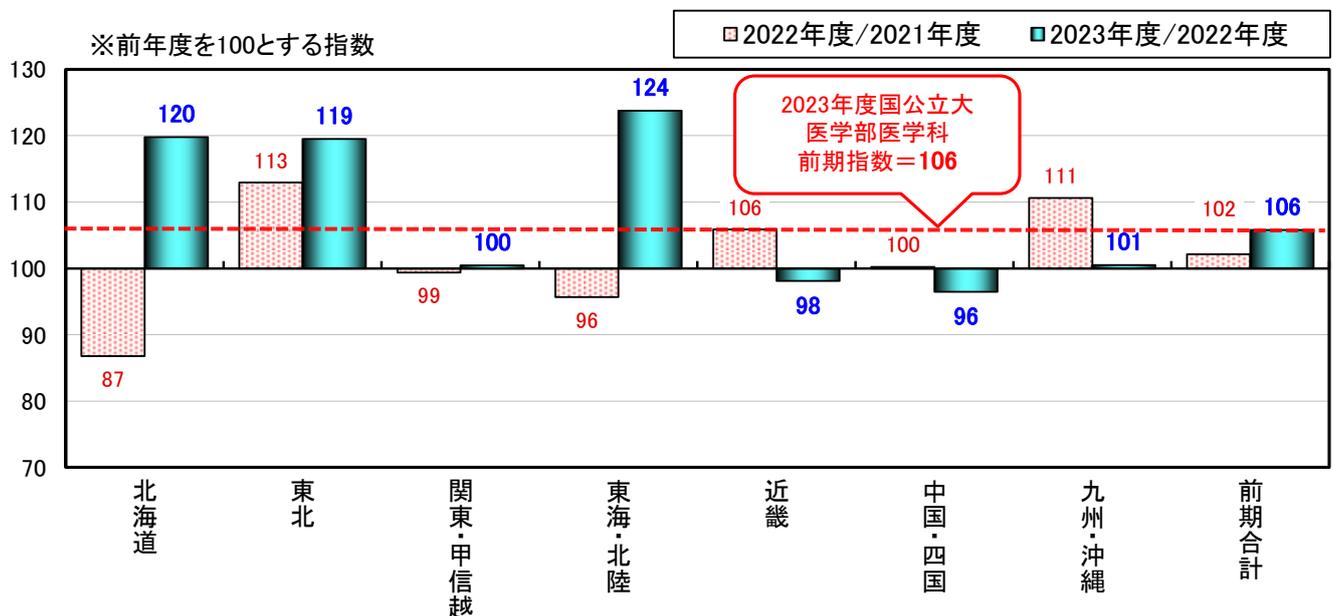
医学部医学科(以下「医学科」)一般選抜全体の志願者数は、後期募集廃止大学の増加、地域枠を中心として総合型選抜や学校推薦型選抜への募集人員の移行、受験人口減少に伴う既卒受験生の減少などの減少要因がありました。また、コロナ禍による医学への関心の高まりと共に、現役生の医学科志望者増加と固い志望動機を持ち他系統への志望変更を考えない受験生の増加により、募集人員が64人(98)減少する中で、1,167人(105)のやや増加となりました。

日程別では、前期は873人(106)のやや増加で、3年連続増加。後期も294人(104)のやや増加で、2年連続増加しました。今年度後期募集を廃止した岐阜大を除いた大学合計での比較では、(110)とさらに増加がみられました。この結果、志願倍率は前期が4.15倍→4.45倍と0.30ポイントアップ、後期は19.99倍→21.51倍と1.52ポイントアップとなり、2001年度以降では2012年度の21.05倍を上回り、最も高倍率となりました。

□前期の地区別では東海・北陸、北海道、東北が増加、中国・四国が減少

〔地区別志願者指数〕

<前期日程>



前期合計では 873 人(106)のやや増加でした。地区別では、東海・北陸(124)、北海道(120)、東北(119)は大幅増加でした。一方で、中国・四国(96)はやや減少でした。

○北海道(120)

旭川医科大(149)は前年度大幅減少の反動で大幅増加。札幌医科大(132)も大幅増加で前年度微増に引き続き増加。一方で、北海道大(92)は募集人員の減少もあり、3年連続減少で志願者数は2015年度以来8年ぶりに300人を下回った。

○東北(119)

福島県立医科大(154)は大幅増加、2017年度以降は前年度の反動による増減が継続。弘前大(130)は2年連続大幅増加。一方で、山形大(97)は前年度大幅増加の反動は小さく大学全体ではやや減少だが、<地域枠>(75)は大幅減少。

○関東・甲信越(100)

筑波大(106)は<一般枠>と<地域枠全国対象>との併願が可能になったが、大学全体では前年度大幅減少の反動は小さくやや増加。ただし、<地域枠>(186)は激増、<一般枠>(84)は大幅減少と対照的。千葉大(105)は前年度減少の反動は小さくやや増加。一方で、群馬大(95)は前年度激増の反動は小さくやや減少。また、東京大(100)は第1段階選抜基準を3.5倍→3倍と厳しくしたが、変動はなかった。

○東海・北陸(124)

富山大(193)は激増で前年度の微増に引き続き増加。浜松医科大(187)は2年連続大幅減少の反動で大幅増加。名古屋大(167)は第1段階選抜基準を900点満点中700点以上の者→900点満点中600点以上の者に緩和したことに加えて、前年度57%の大幅減少だった反動で大幅増加。名古屋市立大(121)、金沢大(119)はいずれも前年度大幅減少の反動で大幅増加。岐阜大(127)は2年連続大幅増加。一方で、福井大(56)は前年度激増の反動で大幅減少。

○近畿(98)

大阪公立大(163)は前年度旧大阪市立大との比較で大幅減少の反動で大幅増加。奈良県立医科大(157)は3年連続減少の反動で大幅増加。京都府立医科大(123)は大幅増加で3年連続増加。一方で、滋賀医科大(54)、和歌山県立医科大(66)はいずれも2年連続増加の反動で大幅減少。

○中国・四国(96)

鳥取大(197)は4年連続減少の反動でほぼ倍増。山口大(178)も2年連続減少の反動で激増。島根大(152)は大幅増加で2年連続増加。高知大(147)は2年連続大幅減少の反動で大幅増加。徳島大(114)は前年度大幅減少の反動で増加、前年度の反動による増減が継続。一方で、岡山大(50)は第1段階選抜基準を4倍→3倍と厳しくしたことで前年度大幅増加の反動で半減。香川大(55)は4年連続増加の反動で大幅減少。愛媛大(62)は2年連続大幅減少。広島大(68)は第1段階選抜基準を7倍→5倍と厳しくしたことで2年連続増加の反動で大幅減少。

○九州・沖縄(101)

大分大(156)は2年連続大幅増加。鹿児島大(124)は大幅増加で2年連続増加。琉球大(124)は大幅増加で3年連続増加。宮崎大(112)は前年度大幅減少の反動で増加、2018年度以降は前年度の反動による増減が継続。一方で、長崎大(60)は募集人員減少に加えて、2年連続増加の反動で大幅減少。熊本大(82)は前年度大幅増加の反動で大幅減少。

<後期日程>

後期合計では 294 人(104)のやや増加で 2 年連続増加しました。

地区別では、1 大学のみ募集である地区では、北海道(241)は旭川医科大のみで 2 年連続大幅増加し、志願者数は 4 年ぶりに 500 人を上回りました。一方で、中国・四国(56)は山口大のみで前年度倍増以上の反動で大幅減少。近畿(76)は奈良県立医科大のみで前年度大幅増加の反動で大幅減少、志願者数が 1,000 人を下回りました。

複数大学の募集がある 4 地区で増減が目立ったのは、九州・沖縄(169)、東北(126)は大幅増加。一方で、東海・北陸(76)は大幅減少だが、後期募集を廃止した岐阜大を除くと(115)の大幅増加。関東・甲信越(89)は前年度大幅増加の反動で減少。

○東北(126)

秋田大(129)は 3 年連続増加で、志願者数は 500 人を、志願倍率は 20 倍をそれぞれ上回った。山形大(122)は前年度激増に引き続き大幅増加で、志願倍率は 2014 年度以来の 20 倍を上回った。

○関東・甲信越(89)

東京医科歯科大(121)は前期の東京大、東京医科歯科大への強気な出願動向の併願先として狙われて、大幅増加で 2 年連続増加。一方で、山梨大(82)は前年度大幅増加の反動で大幅減少。

○東海・北陸(76)

後期廃止した岐阜大を除くと(115)の大幅増加。浜松医科大(233)は前年度激減の反動で倍増以上。名古屋大(200)は<地域枠>→<一般枠>に変更したことで倍増。一方で、福井大(76)は前年度大幅増加の反動で大幅減少。

○九州・沖縄(169)

宮崎大(308)は前年度大幅減少の反動で 3 倍以上の激増。琉球大(194)は前年度大幅減少の反動で大幅増加。一方で、鹿児島大(83)は 2 年連続増加の反動で大幅減少。

〔大学別志願状況〕

地区	大学	方式	日程	配点		志願者数増減		2023年度		2022年度		志願倍率			コメント前(2023変更点のみ記載)
				共テ	個別	増減数	指数	募集人員	志願者数	募集人員	志願者数	2023年度	2022年度	2021年度	
北海道	旭川医科大		前	550	350	+88	149	40	266	40	178	6.7	4.5	7.0	大幅増加で5年ぶりに増加。志願者数は200人を上回った。
			後	600	250	+312	241	8	533	8	221	66.6	27.6	12.5	2年連続激増。志願倍率も27.6倍→66.6倍に大幅アップ。2段階選抜が実施され、第1段階選抜の合格率は22.7%だった。
	北海道大		前	300	525	-24	92	90	291	97	315	3.2	3.2	3.3	<変更点>募集人員:92人⇒90人 3年連続減少。 ※募集人員はフロンティア入試の欠員分の5人を含む(2022年度5人)。
	札幌医科大	前	700	700	+36	171	20	87	91	51	4.4	3.1	2.6	一般枠は激増で、先進研修連携枠は大幅増加。志願倍率は3.1倍→4.9倍にアップ。	
先進研修連携枠				+53	123	55	282		229	5.1		4.0			
東北	弘前大		前	1000	500	+85	134	50	338	50	253	6.8	5.1	3.4	一般枠、青森県定着枠ともに、2年連続大幅増加。志願者数は4年ぶりに480人を上回った。
			青森県定着枠			+25	121	20	144	20	119	7.2	6.0	6.4	
	東北大		前	250	950	-5	98	77	237	77	242	3.1	3.1	3.2	志願者数は微減、募集人員が77人になって以降は3年連続減少。2段階選抜が実施され、第1段階選抜の合格率は97.5%だった。
	秋田大		前	550	400	+11	105	55	231	55	220	4.2	4.0	4.4	2年連続減少の反動は小さく、やや増加。志願倍率は3年連続4倍台。
			後	700	300	+107	131	20	447	20	340	22.4	17.0	15.6	
	秋田県枠		450	250	+6	112	4	56	4	50	14.0	12.5	9.5	1段階選抜が実施され、第1段階選抜の合格率は61.6%だった。	
山形大		前	900	700	-2	99	65	348	65	350	5.4	5.4	3.3	前年度大幅増加の反動は小さく、やや減少。一般枠は前年度並で、3年目の地域枠は2021年度と同数の大幅減少で志願倍率も4.5倍→3.4倍にダウン。	
		地域枠			-9	75	8	27	8	36	3.4	4.5	3.4		
後		900	100	+60	122	15	329	15	269	21.9	17.9	9.8	2年連続大幅増加。志願倍率も17.9倍→21.9倍にアップ。		
福島県立医科大		前	650	660	+197	171	49	474	49	277	9.7	5.7	6.2	医学部全体では、前年度大幅減少の反動で大幅増加。2017年度から前年度の反動による増減が継続。2段階選抜が実施され、第1段階選抜の合格率は56.1%だった。	
		地域枠			+11	110	30	120	30	109	4.0	3.6	4.0		
関東・甲信越	筑波大		前	900	1400	-21	84	45	112	44	133	2.5	3.0	3.6	<変更点> <一般枠> 単願⇒単願または地域枠全国対象との併願を選択 <地域枠全国対象> 単願⇒自動的に一般枠との併願へ 一般枠は2年連続大幅減少。志願倍率は3.6倍→3.0倍→2.5倍にダウン。地域枠は単願から一般枠との併願になったことで大幅増加。志願倍率も2.0倍→3.7倍にアップ。
			茨城県枠			+31	186	8	67	8	30	3.7	3.8	3.8	
			全国枠					10		10	6	0.6	1.8		
	群馬大		前	450	450	-18	94	65	266	65	284	4.1	4.4	2.5	一般枠は前年度激増の反動は小さく、やや減少。地域医療枠は2年連続増加。2段階選抜が実施され、第1段階選抜の合格率は78.9%だった。
			地域医療枠			+3	109	6	37	6	34	6.2	5.7	4.0	
	千葉大			前	450	1000	+36	114	82	293	82	257	3.6	3.1	4.0
地域枠						-18	75	20	53	20	71	2.7	3.6	2.9	
後		450	1000	+5	101	15	406	15	401	27.1	26.7	25.9	前年度並。2段階選抜が実施され、第1段階選抜の合格率は59.9%だった。		
地域枠												9.0			
東京大		前	110	440	-1	100	97	420	97	421	4.3	4.3	4.0	<変更点>第1段階選抜基準変更: 約3.5倍(通過予定人数:約339人) ⇒約3倍(通過予定人数:約291人) 前年度約9%増加の反動および第1段階選抜基準が厳しくなった影響はなく、前年度並。2段階選抜が実施され、第1段階選抜の合格率は69.3%だった。	
東京医科歯科大		前	180	360	+5	102	69	308	79	303	4.5	3.8	4.0	<変更点>募集人員:79人⇒69人 2年連続減少の反動は小さく微増。志願倍率は募集人員減少もあり、逆に3.8倍→4.5倍にアップ。	
		後	500	200	+36	121	10	204	10	168	20.4	16.8	15.0	大幅増加で2年連続増加。志願倍率は16.8倍→20.4倍にアップ。	

2023年度入試状況分析【国公立大】

地区	大学	方式	日程	配点		志願者数増減		2023年度		2022年度		志願倍率			コメント前(2023変更点のみ記載)
				共テ	個別	増減数	指数	募集人員	志願者数	募集人員	志願者数	2023年度	2022年度	2021年度	
関東・甲信越	横浜市立大	地域枠	前	1000	1400	±0	100	58	228	58	228	3.3	3.3	3.7	<変更点><地域枠>募集人員:10人⇒9人 第1段階選抜基準変更: 共通テストの合計が750点以上の者のうちから、募集人員の約3倍(通過予定人数:210人程度) ⇒共通テストの合計が750点以上の者のうちから、募集人員の約3倍(通過予定人数:207人程度)※750点以上の志願者が207人に満たない場合は、志願者全体の共通テストの得点状況等により、750点未満でも合格となる場合がある 前年度と同一志願者数。2段階選抜が実施され、第1段階選抜の合格率は87.7%だった。
			後					9		10					
			診療科枠					2		2					
	新潟大	前	750	1200	-3	99	80	344	80	347	4.3	4.3	3.8	前年度並。2段階選抜が実施され、第1段階選抜の合格率は93.0%だった。	
	山梨大	後	1100	1200	-288	82	90	1333	90	1621	14.8	18.0	11.7	前年度大幅増加の反動で大幅減少。志願倍率も18.0倍⇒14.8倍にダウン。2段階選抜が実施され、第1段階選抜の合格率は67.8%だった。	
	信州大	前	450	600	-3	99	95	380	95	383	4.0	4.0	5.0	前年度並。志願倍率も変動なし。	
東海・北陸	富山大	前	900	700	+203	193	70	421	70	218	6.0	3.1	3.6	前年度微増だが、志願者数が200人台で3年間推移した反動で激増。前年度後期廃止による募集人員増で志願倍率は前年度3.6倍⇒3.1倍にダウンしたが、6.0倍にアップ。	
		後											18.9		
	金沢大	前	450	1050	+47	119	84	291	84	244	3.5	2.9	3.8	前年度大幅減少の反動で大幅増加。志願倍率は2.9倍⇒3.5倍にアップ、2年ぶりに3倍を上回った。	
	福井大	前	900	700	-162	56	55	208	55	370	3.8	6.7	3.5	前年度激増の反動でほぼ半減。志願倍率も6.7倍⇒3.8倍にダウン。	
		後	450	220	-95	76	25	302	25	397	12.1	15.9	12.8	前年度大幅増加の反動で大幅減少。2段階選抜が実施され、第1段階選抜の合格率は75.2%だった。	
	岐阜大	前	900	1200	+127	127	55	593	45	466	10.8	10.4	9.6	<変更点>募集人員:45人⇒55人 第1段階選抜基準:約15倍(通過予定人数:約675人) ⇒約9倍(通過予定人数:約495人) 2年連続大幅増加。後期廃止による募集人員増で志願倍率は10.4倍⇒10.8倍と変わらず。2段階選抜が実施され、第1段階選抜の合格率は83.5%だった。	
		後							10	405		40.5	45.6	<変更点>募集人員:10人⇒0人	
名古屋大	地域枠	前	450	700	+216	189	68	458	68	242	6.7	3.6	4.6	2年連続減少の反動で激増。特に一般枠は3年連続減少の反動で激増。地域枠は2年連続大幅減少の反動で大幅増加。2段階選抜が実施され、第1段階選抜の合格率は60.6%だった。	
		後	900	350	+176	239	14	303	14	127	21.6	9.1	23.8	個別試験に教科試験がなく、共通テストの成績で合否が決まるので、平均点アップの影響も加わり2.3倍増。2段階選抜が実施され、第1段階選抜の合格率は63.7%だった。	
		地域枠	900	350	+3	138	1	11	1	8	11.0	8.0			
	愛知県内	前	900	1650	+77	151	85	227	90	150	2.7	1.7	3.8	<変更点> 第1段階選抜基準変更: 共通テストの合計が900点満点中700点以上の者 ⇒共通テストの合計が900点満点中600点以上の者 募集人員:(一般枠)90人、(地域枠)0人 ⇒(一般枠)85人、(地域枠)5人 募集人員90人中5人が新たに地域枠となった。第1段階選抜基準緩和に共通テスト平均点のアップが加わり激増。一般枠は5割以上の大幅増加、さらに募集人員の6%減少で、志願倍率は1.7倍⇒2.7倍にアップ。新規の地域枠は募集人員5人に志願者数は23人で志願倍率は4.6倍と一般枠よりも競争激化。	
	後	900	0	+38	200	5	76	5	38	15.2	7.6	10.8	<変更点> 第1段階選抜基準変更: 共通テストの合計が900点満点中700点以上の者 ⇒約12倍(通過予定人数:約60人) 募集人員:(一般枠)0人、(地域枠)5人 ⇒(一般枠)5人、(地域枠)0人 地域枠から一般枠となり、第1段階選抜基準緩和に共通テスト平均点のアップが加わり倍増。2段階選抜が実施され、第1段階選抜の合格率は78.9%だった。		

2023年度入試状況分析【国公立大】

地区	大学	方式	日程	配点		志願者数増減		2023年度		2022年度		志願倍率			コメント前(2023変更点のみ記載)
				共テ	個別	増減数	指数	募集人員	志願者数	募集人員	志願者数	2023年度	2022年度	2021年度	
東海・北陸	三重大	医療枠	前	600	700	-40	90	70	350	70	390	4.7	5.2	5.3	2年連続減少。志願倍率も5.2倍→4.7倍にダウン。
			後	600	300	-1	100	10	212	10	213	21.2	21.3	18.3	<変更点> 第1段階選抜基準変更: 10倍(通過予定人数:100人) ⇒15倍(通過予定人数:150人) 第1段階選抜の基準が緩和されたが、前年度並。2段階選抜が実施され、第1段階選抜の合格率は70.8%だった。
近畿	名古屋市立大	指定枠	前	550	1200	+34	121	60	198	60	164	3.3	2.7	3.5	<変更点> 第1段階選抜基準変更: 「総配点550点中の概ね73%以上の者」を22/1/19に 「総配点550点中390点以上(概ね71%以上)に変更」 ⇒「総配点550点中の概ね71%以上の者を対象に募集人員の約3倍」を23/1/18に「総配点550点中400点以上(概ね73%以上)の者を対象に約3倍」に変更 第1段階選抜基準について、過去2年間共通テスト終了後の水曜日に基準変更を発表したので、自己採点集計には反映されないため、次年度以降も注意が必要。前年度大幅減少の反動と共通テストの平均点のアップにより、大幅増加で、2019年度に2段階選抜導入後では2番目の志願者数。
			後	600	600	-73	34	5	37	5	110	7.4	22.0	10.6	前年度激増の反動で大幅減少。特に、地域枠はほぼ1/3で志願倍率も22.0倍→7.4倍の大幅ダウン。
中国	滋賀医科大	地域枠	前	600	600	-113	62	55	182	55	295	3.3	5.4	3.6	前年度減少の反動で増加したが、志願者数は5年連続300人を下回った。 ※募集人員は特色入試の欠員分の3人を含む(2022年度4人)。
	京都大		前	250	1000	+22	108	105	287	106	265	2.7	2.5	2.8	<変更点>募集人員:95人⇒92人 前年度増加の反動で減少。2019年度以降前年度の反動による増減が継続。
	大阪大		前	500	1500	-25	90	92	235	95	260	2.6	2.7	2.5	やや増加。共通テストの配点比が比較的高いため、共通テストの平均点アップも影響。
	神戸大		前	360	450	+9	104	92	256	92	247	2.8	2.7	2.8	大幅増加で3年連続増加。志願者数は300人を上回った。2段階選抜が実施され、第1段階選抜の合格率は85.2%だった。
	京都府立医科大		前	450	600	+65	123	100	352	100	287	3.5	2.9	2.8	前年度は、2021年度に旧大阪市立大が増加した反動で大幅減少したが、この反動で大幅増加。志願倍率も2019年度旧大阪市立大以来の3倍台へアップ。
	大阪公立大 ※2021年度以前は旧大阪市立大		前	650	800	+96	163	75	249	75	153	3.1	1.9	2.8	3年連続減少の反動で大幅増加。志願倍率も6.5倍→10.2倍にアップ。
	奈良県立医科大		前	450	450	+81	157	22	224	22	143	10.2	6.5	7.0	前年度大幅増加の反動で大幅減少。志願倍率も24.7倍→18.8倍にダウン。2段階選抜が実施され、第1段階選抜の合格率は74.5%だった。
	和歌山県立医科大	医療枠A	前	600	700	-101	66	64	150	64	295	2.3	3.7	2.9	<変更点>募集人員:(一般枠)64人程度、(県民医療枠)15人程度⇒(一般枠)64人程度、(県民医療枠A)10人程度、(県民医療枠C)2人程度 第1段階選抜基準:約3.3倍⇒共通テストの合計が900点満点中630点以上の者のうちから、募集人員の約3.4倍(共通テストの中間発表時点の平均点により630点未満でも合格とする場合がある)
中国	鳥取大	鳥取県枠 兵庫県枠 島根県枠	前	900	700	+208	197	58	422	58	214	5.3	2.7	4.5	2年連続大幅増加の反動で大幅減少。新方式の県民医療枠Cは志願者数10人、志願倍率5.0倍で、募集枠別では最も高倍率。
			後	300	900	-314	76	53	997	53	1311	18.8	24.7	16.8	4年連続減少の反動でほぼ倍増。志願倍率も2.7倍→5.3倍にアップ。
			前	700	460	+205	153	55	595	55	390	10.8	7.1	6.6	一般枠は前年度やや増加に引き続き大幅増加で2年連続増加。定着枠も大幅増加で3年連続増加。志願倍率も9.0倍→12.7倍→18.0倍にアップ。2段階選抜が実施され、第1段階選抜の合格率は71.6%だった。
			後	700	460	+16	142	3	54	3	38	18.0	12.7	9.0	<変更点>募集人員:98人⇒95人 第1段階選抜基準:4倍(通過予定人数:392人)⇒3倍(通過予定人数:285人) 前年度大幅増加の反動と第1段階選抜基準を4倍→3倍に厳しくしたことで半減。
岡山大		前	500	1100	-270	50	95	270	98	540	2.8	5.5	3.7		

2023年度入試状況分析【国公立大】

地区	大学	方式	日程	配点		志願者数増減		2023年度		2022年度		志願倍率			コメント前(2023変更点のみ記載)
				共テ	個別	増減数	指数	募集人員	志願者数	募集人員	志願者数	2023年度	2022年度	2021年度	
中国	広島大		前	900	1800	-197	68	90	424	90	621	4.7	6.9	5.5	<変更点>第1段階選抜基準:7倍(通過予定人数:630人)⇒約5倍(通過予定人数:約450人) 合否配点基準変更:A配点(理科重視型)、B配点(一般型)⇒A(s)配点(理科重視型)、A(em)配点(英教重視型)、B配点(一般型) 2年連続増加の反動に加えて、第1段階選抜基準を7倍⇒5倍と厳しくしたことで大幅減少。
	山口大		前	900	600	+167	178	55	381	55	214	6.9	3.9	5.6	2年連続減少の反動で大幅増加。志願倍率も3.9倍⇒6.9倍にアップ。
		地域枠	後	900	500	-196	56	7	254	7	450	25.4	45.0	21.2	前年度倍以上の反動で大幅減少。志願倍率も45.0倍⇒25.4倍に大幅ダウン。2段階選抜が実施され、第1段階選抜の合格率は59.1%だった。
四国	徳島大		前	900	400	+24	114	62	195	64	171	3.1	2.7	3.3	<変更点>募集人員:64人⇒62人 前年度大幅減少の反動で増加。前年度の反動による増減が継続。
	香川大		前	700	700	-236	55	70	284	70	520	3.6	6.6	4.8	4年連続増加の反動でほぼ半減。志願倍率も6.6倍⇒3.6倍にダウン。
		地域枠						9		9					
	愛媛大		前	450	700	-146	62	55	243	55	389	4.4	7.1	9.7	共通テスト英語の配点がリーディング:リスニング=9:1であることから英語リーディング難化の影響もあって、2年連続大幅減少。志願倍率も9.7倍⇒7.1倍⇒4.4倍とダウン。
	高知大		前	900	1000	+112	147	55	350	55	225	5.8	4.1	4.9	2年連続大幅減少の反動で大幅増加。志願倍率も4.0倍⇒5.8倍にアップ。
地域枠							5		5	13		2.6	5.0		
九州・沖縄	九州大		前	450	700	-38	88	105	269	110	307	2.6	2.8	2.5	<変更点>募集人員:110人⇒105人 2年連続増加の反動と募集人員減少で減少。志願者数は300人を下回った。2段階選抜が実施され、第1段階選抜の合格率は92.9%だった。
	佐賀大		前	630	300	-2	99	50	230	50	232	4.6	4.6	4.8	<変更点>調査書の点数化廃止 調査書の点数化を廃止した影響はなく、微減で5年連続減少。
			後	630	120	-4	98	10	223	10	227	22.3	22.7	23.9	<変更点>面接の配点変更、調査書の点数化廃止 面接の配点変更となり、調査書の点数化を廃止した影響はなく、微減で2年連続減少。2段階選抜が実施され、第1段階選抜の合格率は80.7%だった。
	長崎大		前	450	800	-184	60	71	273	76	457	3.8	6.0	5.6	<変更点>募集人員:76人⇒71人 2年連続増加の反動と募集人員減少で大幅減少。志願者数は300人を下回った。
	熊本大		前	400	800	-81	82	87	366	87	447	4.2	5.1	3.7	前年度大幅増加の反動で大幅減少。
	大分大		前	450	550	+142	156	55	395	55	253	6.1	3.9	2.7	2年連続大幅増加。志願倍率も2.7倍⇒3.9倍⇒6.1倍にアップ。2段階選抜が実施され、第1段階選抜の合格率は49.9%だった。
		地元枠						10		10					
	宮崎大		前	900	600	+30	112	45	282	45	252	6.3	5.6	5.9	前年度大幅減少の反動で増加。2018年度から前年度の反動による増減が継続。2段階選抜が実施され、第1段階選抜の合格率は95.7%だった。
			後	900	150	+586	308	15	868	15	282	57.9	18.8	19.9	前年度大幅減少の反動で3倍以上。2段階選抜が実施され、第1段階選抜の合格率は39.1%だった。
鹿児島大		前	900	920	+65	124	69	331	69	266	4.8	3.9	3.6	2年連続増加。2020年度以降前年度の反動による増減が継続。志願倍率も3.9倍⇒4.8倍にアップ。	
		後	900	320	-62	83	21	313	23	375	14.9	16.3	12.7	<変更点>募集人員:23人⇒21人 2年連続増加の反動と募集人員減少で大幅減少。志願倍率も16.3倍⇒14.9倍にダウン。2段階選抜が実施され、第1段階選抜の合格率は60.1%だった。	
琉球大		前	900	800	+81	124	70	421	70	340	6.0	4.9	4.5	共通テスト重視の配点により共通テストの平均点アップの影響もあって、大幅増加で3年連続増加。志願倍率も4.5倍⇒4.9倍⇒6.0倍にアップし、志願者数も5年ぶりに400人を上回った。2段階選抜が実施され、第1段階選抜の合格率は83.1%だった。	
		後	1000	300	+330	194	25	682	25	352	27.3	14.1	16.5	前年度大幅減少の反動でほぼ倍増。志願者数は700人に迫った。2020年度以降前年度の反動による増減が継続。2段階選抜が実施され、第1段階選抜の合格率は44.0%だった。	

2023 年度入試状況分析【国公立大】

〔志願者数が多かった大学〕

前期日程		後期日程	
島根大	649 (58)	山梨大	1333 (90)
福島県立医科大	594 (75)	奈良県立医科大	997 (53)
岐阜大	593 (55)	宮崎大	868 (15)
浜松医科大	495 (75)	琉球大	682 (25)
弘前大	482 (70)	旭川医科大	533 (8)

〔志願者数が少なかった大学〕

前期日程		後期日程	
筑波大	179 (63)	名古屋大	76 (5)
和歌山県立医科大	194 (76)	東京医科歯科大	204 (10)
徳島大	195 (62)	三重大	212 (10)
名古屋市立大	198 (60)	佐賀大	223 (10)
福井大	208 (55)	山口大	254 (10)

※()内は募集人員。一般枠と地域枠に分けて志願者数を公表した大学は、日程合計の志願者数を掲載。

〔増加数が多かった大学〕

前期日程		後期日程	
浜松医科大	+230	宮崎大	+586
島根大	+221	琉球大	+330
鳥取大	+208	旭川医科大	+312
福島県立医科大	+208	浜松医科大	+179
富山大	+203	秋田大	+113

〔減少数が多かった大学〕

前期日程		後期日程	
岡山大	-270	奈良県立医科大	-314
香川大	-236	山梨大	-288
広島大	-197	山口大	-196
滋賀医科大	-186	福井大	-95
長崎大	-184	鹿児島大	-62

※一般枠と地域枠に分けて志願者数を公表した大学は、日程合計の志願者数で増減を算出。

〔志願倍率が高かった大学〕

前期日程		後期日程	
島根大	11.2	旭川医科大	66.6
岐阜大	10.8	宮崎大	57.9
奈良県立医科大	10.2	琉球大	27.3
福島県立医科大	7.9	千葉大	27.1
山口大	6.9	山口大	25.4
弘前大	6.9		

〔志願倍率が低かった大学〕

前期日程		後期日程	
和歌山県立医科大	2.6	福井大	12.1
大阪大	2.6	山梨大	14.8
九州大	2.6	鹿児島大	14.9
名古屋大	2.8	名古屋大	15.2
神戸大	2.8	奈良県立医科大	18.8
京都大	2.8		
筑波大	2.8		
岡山大	2.8		

※一般枠と地域枠に分けて志願者数を公表した大学は、日程合計の募集人員、志願者数で算出。